様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23(2011)年 5 月 31 日現在

機関番号：３３１０５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：：２０５６０６０６
研究課題名（和文）和歌山県橋本市中心市街地における町並みと大工集団の関わり
研究課題名（英文）Relation of the carpenter group to the cityscape at the center of Hashimoto city in Wakayama pref..

研究代表者
平山　育男（HIRAYAMA IKUO）
長岡造形大学・造形学部・教授
研究者番号：５０２０８８５７

研究成果の概要（和文）：橋本市中心市街地においては明治時代後期頃から、住宅の上棟式に際して幣串が複数本造られ、上棟式の終了後には、これらを大工、左官、瓦製造業者などが自宅などへ各自持ち帰ることが明らかとなった。橋本市の中心市街地に在住する大工職である太田家からは 20 本余の幣串が発見することができた。幣串に記された住宅の場所を調べると、太田家からの直線距離平均は 710m 程となり、徒歩圏における大工の生産活動を裏付けることができた。

研究成果の概要（英文）：Several *Heigushi* were made in central Hashimoto from the the latter half of the Meiji era by the celebration of the *zyohtohsiki* of the house. And It was revealed that a carpenter , a plasterer , a tile manufacturer brought these to the homes after an expression . We discovered 20 *Heigushi* from the carpenter Ohtas lived in the central Hashimoto. The distance in a straight line average of houses written on *Heigushi* and the Ohtas was about 710m. So we were able to support the production activity of the carpenter with the foot zone.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：日本建築史・住宅史
科研費の分科・細目：建築学・5304 建築史・意匠
キーワード：(1) 幣串 (2) 大工 (3) 上棟式 (4) 和歌山県 (5) 橋本市

１．研究開始当初の背景

紀ノ川中流域、和歌山県橋本市の中心市街地、橋本、古佐田、東家地区は昭和 60(1985)年以来、事前の歴史的建築調査がなく、当該地域内における全ての建物を破棄して新築する再開発と、土地区画整理事業が平行して再開された。しかし、申請者らは平成 10(1998)年以来、当該地域で解体される建物に徹底した痕跡調査を伴う建築調査を行ない、精緻な復原、編年作業を実施して基礎的な研究を固め、近世の橋本が塩市を始めとする在郷町として発展した側面のあることを示すに至った。

そして、一連の調査を通し、橋本地区において享保 6(1721)年建築の火伏家住宅、宝暦 3（1753）年建築の牲川家住宅等を発見し、橋本の町並みが和歌山県内でも屈指の質と量を誇ることを明らかにした。また、これらの成果により、一部の建物を国登録文化財として現地に残し、新しい町並みを創る手助けも行っている。加えて先般､昨今の経済情勢の故もあり、この再開発と土地区画整理事業について、当初計画地の凡そ半分に近い面積を「休止」とすることが橋本市議会において可決された。町並みは今後、既存の姿を保ちつつ、新たなまちづくりが進められる運びとなったのである。

一方、橋本からやや入った九度山を始点とする高野・熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として平成 16(2004)年、世界遺産に登録され､注目を集めている。ところで橋本には江戸時代以後、高野街道の紀ノ川における無銭渡が設けられる等、紀ノ川と密接な関係を持ちながら、高野山下の重要な宿場町として発展したことも申請者らは既に明らかにしている。実は本来、橋本こそが高野・熊野古道の入口に位置付けられるのである。

本研究ではこれら社会的な動きに対応すべく、橋本のまちと町並みがどのようにして形成されるに至ったのかを、近世から近代に至る建築資料について網羅的に当たることにより、実証的に調査・解明することを目的とする。

ところで大場修は、日本の多くの町並みが京風文化の摂取に長年取り組んだ結果として、切妻平入の町並みが全国に出現したことを『近世近代町家建築史論』で記している。中でも橋本の町並みは、全国で唯一、町家の建築に京大工の関わりが実際に確認され、いわゆる「表屋造り」に類似した町家の建設を行っていることを記すのであるが、これも申請者らによる一連の調査成果によるものである。

このように、橋本の町並みの成立は、単に内的な要因のほか、京都の文化、明治時代中期における鉄道開通後における大阪の文化などの要因にも強く影響されながら形成されたと考えるのが妥当であり、これらを明らかにすることを第二の目的とする。つまり、ここでは近世から近代にかけての橋本がどのような外的影響を受けながら町と町並みを形成するに至ったのかを明らかにするものである。

２．研究の目的

これまで和歌山県橋本市の中心市街地である、橋本、古佐田、東家地区を中心に 100 棟余の建築調査を続け、いわゆる歴史的な構法によっては昭和 30(1955)年代初頭まで、町家が築かれ続けたことを確認している。そして一連の調査において建築関係文書を 8 戸から、棟札・幣串 90 本余を発見している。棟札・幣串については、近世の棟札が近代において大正時代初期頃から幣串に変わる点は実体的に確認しているものの、その理由、背景などは現段階では明らかではない。また、棟札・幣串が時代を追うごとに連続的に大きくなる点も事実としては把握したものの、その要因・動機は明らかではない。

一方、ある住宅における調査では 30 本を越える幣串を主屋小屋裏の物置から発見した。ところがこれらはほとんどが当該の住宅とは異なる施主名を持つものであった。周辺地域では、上棟式に当たり幣串は複数本作成されて儀式を行い、式後１本は上棟式の行われた建物小屋裏

に納められ、もう１本は大工などに渡される習慣があったという。恐らく 30 数本の幣串は後者に当たるものと考えられた。当該住宅の先代は左官職を行っていたという。

以上の様な成果を踏まえ、当該期間内では建築関係文書、棟札・幣串の収集・分析を進めるとともに、歴史的な建造物の調査を通して、大工及び左官等の関連職を含む大工集団がどのような建築を残したのかを考察・解明する。橋本においては近世来、一貫して大壁造の町家が造られ続けたものの、明治後期以後、これが真壁造で軒の高い町家建築にとって変わった。これらは年代軸において一定の整理はなされているものの、加えて大工集団としての関わりの把握は行われていない。時代の大きな変化に対して、それらを造った側はどのように変化して対応したのか。また棟札・幣串における記述の方法は何故変わり、どのように定着して行ったのか。これらの点の解明も試みたい。

即ち、伝統的な建築造形・意匠の変遷と大工集団との関わり、大工集団における記録の在り方を明らかにしようと考えている。

３．研究の方法

平成20(2008)年度には準備・予備調査を実施した。この調査では３カ年にわたる本調査の見通しを付けるもので、調査範囲及び調査対象を設定した。

研究対象地域は橋本市中心市街地とするが、準備段階では以下の計画を予定した。即ち、当該地域の内、橋本駅前となる橋本地区の全域と古佐田、東家地区の一部が前述の通り全戸取り壊しが決定したが、橋本地区の半分と古佐田地区については一部事業休止となった。そのため本事業を管轄する橋本市区画整理事業管理事務所と打合せの上、事業施行地の確認を行い、今後解体などで除去される可能性のある地域・建物の確認を行い、全体の調査に関わる計画を立案する。これとともに、今後とも既存にある歴史的な建造物・町並みを生かした町づくりを提案する。

また、橋本市教育委員会の協力の下、各種史料、写真等の収集を行うとともに、地元郷土史家との情報交換を行う。一方、調査対象地域の町会長に当たる区長とも綿密な連絡を取り合い、地元との円満な関係を築いた上で実地の建築調査に臨む。

建築調査として平成20(2008)年8月以後の期間を予定する。建築調査では先ず、橋本・古佐田・東家地区において実施する。この調査においては建築物の平面について現状平面図、復原平面図とその根拠を示す痕跡図、構造の構成を示す架構図等の作成を行う。また、編年を行うための資料として細部や構造形式を記録し、併せて所有者、居住者などから聞き取り調査を実施する。また、建物内外から建築年代を示す１次資料及び建築関係資料の発見に努める。加えて建物の内外、詳細について写真撮影を行う。

また、大工集団の調査については橋本地域を中心として聞き取り調査を行う。また、これまでに発見された幣串の住宅を公刊資料などにより特定する調査も行う。

４．研究成果

橋本市中心市街地においては少なくとも明治時代後期頃からは、建築物の上棟式に際してはそれ以前の棟札から幣串の作られたことが、都市再開発によって解体を

受けた建物の遺構調査から明らかとなった。そして幣串は上棟式に際しては大工達自身により複数本が製作され、上棟式の後はこの幣串を大工、左官、瓦製造業者などが、自宅などへ持ち帰ることが、それらの職人の住宅調査などを通して明らかとなって来ている。

調査では橋本市の中心市街地である古佐田に在住し、当地において大工職を数代に渡って生業とした太田家における聞取り調査を実施した結果、太田家2 代が手掛けた昭和36(1961)年から昭和56(1981)年のおよそ20 年に渡る上棟式に関わる21本の幣串を確認するに至った。幣串には表面に「祝上棟（式）」の文言のほかに、施主名、裏面には上棟式の年月日、施工者名が記されており、幣串自体には釘打の痕跡が残らないことから、これらの幣串は上棟式後に、当該の建物に取付けられることもなく、直接大工家へ持ち帰られたことは明らかであった。

ところで、この幣串に施主の住所は記されないが、それを知ることで、逆に言えば当該する大工の商圏を把握することとなる。そこで、50 音電話番号簿、職業別電話番号簿、住宅地図などの公刊資料を用いて、21件中、17 件の所在地を同定することができた。その結果、全体の過半となる9 件は同一町内である古佐田に所在し、隣接町内までの数は13 件となった。さらに番地までを確定させることができた13 件について太田家からの直線距離を求めると平均は710m で、徒歩圏における生産活動を裏付けることができた。

即ち、大工集団は地元における町家の建築を長年手掛け、地域における造形の形成に深く関わったことが明らかとなったのである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 13 件）

① 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子：近畿地方における上棟式の幣串について　和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その 82、2010 年度日本建築学会関東支部大会、平成23(2011)年 3 月

② 藤川昌樹、平山育男、御船達雄：橋本市東家の町並み形成過程　和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その 81、2010 年度日本建築学会大会（北陸）、平成 22(2010)年 9 月

③ 西澤哉子、平山育男、御船達雄、梅嶋修：橋本市橋本 旧梅谷家- 小嶋家住宅について　橋本の長家建築　その 17 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究　その 80、2010 年度日本建築学会大会（北陸）、平成 22(2010)年 9 月

④ 梅嶋修、平山育男、御船達雄、西澤哉子：橋本市橋本　田中家住宅について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究　その 79、2010 年度日本建築学会大会（北陸）、平成 22(2010)年 9 月

⑤ 御船達雄、平山育男、梅嶋修、西澤哉子：畑萬金物店に見る近代の町家増築過程とその空間　和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究　その 78、2010 年度日本建築学会大会（北陸）、平成 22(2010)年 9 月

⑥ 平山育男、御船達雄、梅嶋修、西澤哉子：火伏家住宅主屋について　和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査

研究　その 77、2010 年度日本建築学会大会（北陸）、平成 22(2010)年 9 月

６．研究組織

(1)研究代表者

平山　育男（HIRAYAMA IKUO）
長岡造形大学・造形学部・教授
研究者番号：50208857

(2)研究分担者

藤川　昌樹（FUJIKAWA MASAKI）
筑波大学大学院・システム情報工学研究科・教授
研究者番号：90228974

西澤　哉子（NISHIZAWA KANAKO）
長岡造形大学・造形学部・研究員
研究者番号：90440453